

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		北療育医療センター城南分園（児童発達支援センター）				
		公表日 令和8年1月29日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・ 体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	21	7		身体機能の差があっても、安全に活動できるよう、保育室の使用方法について検討している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	21	7		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	20	8	・ 過ごしやすい床材。床暖房あり。 ・ 好奇心旺盛で活動的な児に対しての環境整備に工夫が必要。スイッチ、引き出しを隠す等の工夫をしている。 ・ トイレが改築されてトイレ内環境が良くなった。	・ お子様の状況に合わせて例えば視覚的な情報を整理し、落ち着く環境を整えるような工夫をさらに進めていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	24	4	・ こまめに清掃している。 ・ 児が製作した作品などが飾られていて良い。	・ 様々な身体機能のお子様落ち着いて過ごせるよう、工夫を重ねていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	24	4	・ 空いている保育室や保育室の一部を利用し、場所提供している。	・ 「活動的に体を動かせるスペース」「静かに個別に過ごせる環境」など、適宜調整できるよう工夫を重ねていく。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	25	3	・ 通園担当職員と個別支援担当職員との合同の会議が毎月設定されている。	・ 目標設定と振り返り後の改善が不十分と考える職員もいるため、必要に応じて改善に向けた検討が必要。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	26	2	・ 個別支援計画書などの書き方で、改善があった。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	24	4		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	25	3	・ 自己評価実施。 ・ 令和5年度に福祉サービス第三者評価を受審。以降3年ごとに受審予定。令和6年度からは自己評価を実施している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	25	3		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	25	3	・ 「児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準（平成24年厚生労働省令第15号）」に基づき、支援プログラムを作成し、ホームページにおいて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	27	1		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	25	3		

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	25	3		・個別支援計画の作成についてのスキル、知識の向上が必要と考える職員もあり、必要に応じて資料提供など行っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	24	4	・医師や通園担当、個別支援担当は共通のアセスメントシートを使用している。日々の記録は電子カルテ・療育システム上で確認が可能。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	27	1	・令和7年度より、計画書の様式が、5領域の視点に基づいた様式へと変更になった。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	27	1		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	25	3	・同じプログラムが行われていることがあるが、繰り返し行うこと、経験を積むことが必要なためであり、お子様に合わせた工夫だと思う。 ・行事に向けての活動や季節、お子様の登園日等に合わせて設定している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	26	2		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	26	2	・毎朝のミーティングで支援内容等確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	28	0	・支援終了後の意見交換は定着している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	26	2		・支援目標に沿った記録が不十分との意見もあり、日々の記録方法について検討する必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	26	2	・入退院や状態の変化に合わせて見直しを行っている。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	27	1		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	25	3		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	26	2		
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	26	2	・城南分園職員が小学校を訪問したり、小学校の先生や教育委員会の担当者が城南分園に來園するなど、連携を重ねている。		

関係機関や保護者との連携	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	25	3	・大田区内にある児童発達支援センター「わかばの家」との連絡会を開催するとともに、状況に応じて個別の児童の情報も共有を図っている。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	25	2 ※1件： 未回答		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	25	3		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	28	0	・コロナ禍以前実施していた地域の保育園との交流を再開した。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	27	1	・お子様の些細な変化も、保護者と共有することができている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	25	2 ※1件： 未回答		・保護者勉強会を7回実施し、その他情報提供を行っている。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	27	1		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	27	1		・保護者との対話がさらに必要との意見もあり、引き続き保護者との対話の機会を大切にしていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	28	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	27	1		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	26	2	・分離保育の時間など、保護者同士が就学のことなど、情報共有をする機会がある。	・きょうだい児同士の交流に向け準備を進めている。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	26	1 ※1件： 未回答		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	26	2		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	28	0	十分留意している。	
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	27	1			

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	20	8	・近隣の中学校の学生を「職場体験」として受け入れるなど、次世代を担う子どもたちが、障害児者への理解を深められる場を設けることでインクルーシブに貢献している。	・「七夕まつり」などの行事を活用してはどうかとの意見もあり、様々な方法を検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	28	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	27	1	毎月非常災害の発生に備えた訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	28	0		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	28	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	27	1		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	26	2		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	28	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	27	1	・事件やニュースなどから得た情報も都度共有し、認識を深めるなどしている。 ・研修を定期的に行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	27	1		